

熊本県教育委員会主催の人権教育にかかる研修会に参加してきました。ポイントを整理して復講します。

県教育長のあいさつ

教育の根幹に人権教育を据える

今年は節目の年 ①人権三法10年 ②水俣病公式確認70年

人権教育の尊重の視点に立った学校（学級）経営

ウェルビーイング = 第4期教育振興基本計画に位置付けられている

見えない部分を想像する感性・感覚を持ってほしい

目的

「人権尊重の精神に立った学校づくり」に向け、人権教育の充実・深化を図るため、校長として人権の意義や内容・重要性の理解及び様々な人権問題についての認識を深めるとともに、自校の人権教育推進上の課題解決に向けた取組に資する

講演「人権教育とこれからの学校づくり」

～『ウェルビーイング』の実現をめざして～

元大阪教育大学学級文化研究会代表 園田 雅春 氏

午後1時35分～午後3時35分

1 子どもたちが生きる現代 —— 子どもにとって学級・学校は「一大社会」

(1) 「非密・非接触」強制期を経て現在は「豊かなつながり」共創期

縦軸 上部からほんしん・本音

横軸 同質から異質へ

奥軸 主体的な学び

(2) 「ペアレントクラシー」といわれる現代

学力に影響を及ぼす最大の原因は、保護者の年間所得。最終学歴などのすいじゅんということがデータ分析で分かった。

「格差バイパス」「異質協働」「異質補完」

S社会的 E経済的 Sステータス どのように生まれ育ったか？ 教育格差

SESが低いから必ずしもすべての子どもが低いわけではない

だから、今、学校教育が重要

= 「幼保等小中高連携」「協働的な授業」「保護者啓発」「非認知能力」「読書活動など

※ 格差バイパスを架ける（豊かなつながり）

= 協働的な学び = 異質協働の授業 → 異質補完

(3) めざしたい「学級・学校社会」のかたち

「大豆型」・・・・・・・・ばらばら

「枝豆型」・・・・・・・・小グループ化

「とうふ型」・・・・・・・・教師が圧力的に指導 子どもはやらされ感 中身は偽物

「納豆型」・・・・・・・・個として自立しながら周りつつつながる集団

つながる教育・つなげよう実践 0609 023 令和8年度校長人権教育推進会議 復講
つながるためには「つなぎ」(ボンド)が必要
＝学級文化活動、学校行事、授業・・・など
子どもの持ち味を引き出す ＝ 持ち場と出番で生かされる
※上記のことを教職員集団で考える

2 人権同和教育 今とこれから —— 「部落差別解消推進法」2016年施行から10年

(1) 人権同和教育 2本の柱 (①人権についての学び × ②人権としての学び)

柱①「人権についての学び」

- 個別人権課題」についての学び
- ・「寝た子」をネットが起こす現代
今もなお部落差別は存在しているのが現状
部落差別の問題に関して、インターネット上で人権侵害事例を見たことがある
→18～29歳 19%
 - ・「孫(中3)とおじいさんの実話」
三重市の事例 被差別部落融資な地区で生まれている
祖父「あそこの食べ物はない」・・・孫「部落問題学習のファイル」正しい意見主張
→学校での人権学習の成果の事例
 - ・「子どもは権利の享有主体」分かりやすく伝えることが求められる
(第二次「人権教育・啓発に関する基本計画」2025年策定)
→ 報告書に基づいた 基本計画作成
 - ・「子どもの権利条約」(1994年批准)
 - ・「こども基本法」(2023年施行)
意見を表明する機会及び多様な社会活動に参加する機会が確保
個別人権感覚を他人事から自分事として捉
 - ・子どもの「参加」「意見表明権」の尊重
「口答え」と「意見表明」は同じ？違う？
 - ・「善意」「常識」「慣習」の問い直し

柱②「人権としての学び」

- 大事にされてる実感」(被尊感情) → 健全な自尊感情(獲得的自尊感情)
⇒「自尊感情」＝「獲得的ウェルビーイング」
女子うざい死ね(生徒) ← 受容的指導、指示的指示(担任)
- (2) 「他者の人権を大事にする」← 相互幸福状態 → 「自分の人権が大事にされる」
- (3) 「自分の人権が尊重された経験のない者は 他人の人権も尊重しない」(小熊英二)

3 「ウェルビーイング」と学校社会づくり

(1) 「ウェルビーイング」の動向

「普段の生活の中で幸せな気持ちのなることはどれくらいありますか」

「友達関係に満足していますか」

私たちが望む未来にはかず多くのビジョンが存在するかもしれないが、社会のウェルビーイングは、共通の目的地です。

(2) 「ウェルビーイング」と「ハピネス」

- ・happiness 「短期的・個別的で気分的な幸福感情」 happen (起こる)
- ・well-being 「持続的で『個』と『場』の幸福状態」 being (～な状態)

2羽のことり (小一)

要約

みそさざいは、やまがらに遊びに誘われましたが、うぐいすの誕生日をお祝いするために断り、友達を大切にしました。

このお話の中心

友達との約束を守ること、相手のことを思いやること、みんなと仲良くすること
二通の手紙 (小4)

要約

門番の元さんは規則を守って女の子の願いを断りましたが、二通の手紙を通して、相手の立場や気持ちを考えることの大切さを学びました。

この物語の主題

規則を守ることの大切さ、相手の事情や気持ちを考えることの大切さ、本当の親切とは何かを考えること

・・・ウェルビーイングを学ぶ教材

職場集団(場)の遵法精神は？

- ①コンプライアンス 個の法令遵守・公德心
- ②コーポレート・ガバナンス組織としての統治・自治

(3) 子どもの「所属感」と「生活満足度・学力」の相関性 (PISA 調査)

- ・「自己有用感」「自己効力感」などを感得 ⇒ 「所属感」「所有感」の高揚
→学力も併せて高くなる。(相関性)
→どう高める

自分は役に立っているという実感を感じさせる機会の設定

「自己有用感」「自己効力感」「相互依存感」「相互承認感」などを獲得

(4) 「ウェルビーイング」(2019年)と「水平社宣言」(1922年)

- ・「人の世に熱あれ、人間に光あれ」
- ・「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」(宮沢賢治 1926年)

(5) 「教職員のウェルビーイング」

第4期教育振興基本計画～2027

子どものウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要であり、**学校が教師のウェルビーイングを高める場**となることが重要

4 むすびに

- (1) 「一人の子どもを粗末にするとき その学校は光を失い その地域は未来を失う」
- (2) 『授業と学級社会づくり 人権を基調に』 『「つながり」を育み 授業を愉しむ』

「教職」はブラックではないプライドである。

5 感想

- (1) やはり根底は人権教育

SDGs (～2030) Sustainable Development Goals

SDGs (持続可能な開発目標) とは、簡単に言うと「地球の環境を守りながら、2030 年までに世界中の貧困や差別をなくし、みんながずっと幸せに暮らせる世界をつくるための世界共通の目標」です。

↓ これからは (ウェルビーイングの視点)

SWGs Sustainable Well-being Goals

SWGs ((持続可能なウェルビーイング目標)) とは、2030 年に期限を迎える SDGs (持続可能な開発目標) の次を見据えた、ポスト SDGs の国際目標・概念です。環境や経済の発展だけでなく、地球環境の限界を守りながら「人々の幸福や生活の質向上」を中心に据える。



持続可能な社会づくりの指標として広く知られる SDGs が 2030 年に達成期限を迎える中、次世代の国際目標として SWGs (持続可能なウェルビーイング目標) が注目を集めています。SWGs は単なる環境保全や経済発展だけでなく、人々の幸福感や社会的つながりを重視する新たな枠組みです。

ウェルビーイング社会への移行に向けた最新動向を理解し、自分自身や組織の幸福度向上に役立ていく必要があります。

- (2) 私たちが子どもたちにできること

子どもに付けたい資質・能力

資質・能力	教師が指導すべき内容
読解力	相手の思いや立場を理解し、多様な価値観を受け止める力を育てる。
判断力	人権尊重の視点から物事を考え、適切な行動を選択する力を育てる。
協働力	違いを認め合い、互いを尊重しながら協力してよりよい集団をつくる力を育てる。

この3つは、人権教育で育成を目指す「人権感覚」を具体化した資質・能力として位置付けることができます。